

斜面工学研究小委員会環境生態系及び景観計画第二回合同 WG
議事録(案)

開催日時：平成 16 年 1 月 6 日(火)

時間： 午後 1 時～6 時

場所： 土木学会 2 F 会議室

出席者：佐々木環境 WG 長、中野景観 WG 長(代理)、後藤委員長、稲垣副委員長、桜井委員、外狩委員代理、大野幹事、(敬称略)

(オブザーバー兼話題提供者)

佐藤 正(埼玉大学大学院生)

議題 1：斜面の計画・景観とは？

話題提供：

- ・オムニスケープジオロジー(景観と環境の定量評価)

話題提供者：大野 博之(長崎大学) パワーポイント使用

配布資料：色彩・形状の観点からみた数値的景観評価の試み.土木学会論文集 No.695/
-54.31-44,2002.

- ・のり面における自然回復緑化について—斜面景観を考えるにあたって—

話題提供者 中野裕司(中野緑化工技術研究所)

配布資料：「切土法面の緑化と自然回復に関する討論会」資料.2000.

- ・表土撒き出し工法の展望 パワーポイント使用

話題提供者：佐藤 正(埼玉大学大学院生)

配布資料：パワーポイント配布資料

- ・総合討論

議題 2：その他

次回開催予定 平成 16 年 4 月 23 日(金) 13:00 より

開催場所：土木学会 2 F 会議室

2) 話題提供内容

- ・オムニスケープジオロジー(景観と環境の定量評価)

景観と環境の定量評価の方法論、すなわちアンケートによる方法、定量的方法について、その視点と特質について紹介した。今後期待される定量評価の方法論では、色彩を対象としたパワースペクトル(RGB)解析の指数化が有効か、その際の評価基準はスペクトルのゆらぎの範囲 $1/f = 2$ が適切か。

- ・のり面における自然回復緑化について—斜面景観を考えるにあたって—

これまでの緑化の考え方、技術の流れを紹介、緑化の対象も傾斜の緩い軟質な地盤から、のり面の浸食防止による斜面安定のみならず、修景・景観対策、生物多様性にまで

配慮した緑化が求められている。また、単に、緑に変えるだけでなく、安定地盤として機能性が求められている。その際、土木構築物の耐用年数が約 50 年といわれる中で、緑化対象面の耐用年数の議論も必要。

ただ、緑化は単に土木的な均一性だけではなく、自然の多様性を備える必要があり、その折り合いが問題となる。

一例として自生種苗木導入による緑化事例を紹介した。

- ・ 表土撒き出し工法の展望

自然の再生手法として注目される「表土撒き出し工法」をその有効性を検証した結果を紹介した。これまで行われてきた「表土撒き出し工法」の事例紹介、施行から 15 20 年経過後の状況を多様度指数、帰化率、遷移度などの評価方法を使って解析、従来型の外来牧草急速緑化工法と比較した。その結果、いずれの例でも「表土撒き出し工法」の有効性が認められる。従来型の外来牧草急速緑化では 20 年経過しても、自然の回復を阻害している結果であった。ただ「表土撒き出し工法」処理面の緑被率は、初期 5 年間外来牧草急速緑化に劣る。緑化完成の目標年度を長く設定する考え方が必要。

関連して、ドイツでの表層土保全の義務化の例、霞ヶ浦、芝川での事例のように湿地環境での「表土撒き出し工法」の事例も紹介された。

3) 質疑応答・議論

各話題提供の後、活発な質疑がおこなわれ、時は 6 時を回っていた。後の議論は外の居酒屋でということに。